

第 10 回 新花巻図書館整備基本計画試案検討会議 会議録

- 1.開催日時 令和4年7月12日(火) 午後2時～3時15分
- 2.開催場所 生涯学園都市会館(まなび学園) 3階 第2・3中ホール
- 3.出席者 委員出席者15名 堀合範子委員、熊谷恵委員、小国朋身委員、山下牧子委員、
白岩拓樹委員、藤井公博委員、佐々木史昭委員、前野祐子委員、
福盛田弘委員、佛川恒明委員、佐藤敦士委員、佐藤恒委員、
梅原奈美委員、平澤広委員、市川清志委員
欠席委員5名 松田治樹委員、高橋一矢委員、高橋美香委員、菊池桂委員、小山田厚委員
専門家1名 富士大学 早川光彦教授
事務局7名 新花巻図書館計画室 佐々木室長、高橋次長、菊池主任主査、
高橋上席主査、多田主査、幅下主査、小田島主任
- 4.報道機関 なし
- 5.傍聴者 1名
- 6.会議内容

事務局(佐々木室長)

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただいまから新花巻図書館整備基本計画試案検討会議の第10回の会議を開催いたします。会議を始めるにあたりまして、本日の会議資料の確認をさせていただきます。本日の資料は次第、名簿、そして資料1としまして試案検討会議における建設候補地選定に係る意見一覧というものをお付けしております。本会議につきましては議事録を作成し、公開してございますので、ご発言の内容はマイクを使用させていただきますようお願い申し上げます。

では次に開会にあたりまして、この会議の座長であります市川生涯学習部長よりご挨拶申し上げます。

座長

皆さん、こんにちは。本日もお忙しいところご出席を賜わりまして大変ありがとうございます。いろいろなことがありまして、なかなか整理できませんが、また新型コロナウイルスも少し増えて来ているようなこともございます。世界情勢もどうなのかというのもございますし、そういう中で私たちは淡々と花巻のための新しい図書館をぜひ前に進めて行きたいと決意する次第ではありますけども、その中でまた今日も皆様から、やはり建設場所が今課題になっているところですので、ここの整理をしたいというのがございますし、再確認をしながらご意見をいただければなと思っていますところですので。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして毎回の確認をいたします。基本的に会議を公開ということでやっておりますが、非公開のほうが良いというご意見があれば非公開ということもあります。よろしいですか、公開ということで。傍聴者も無いというような状況になっておりますが、公開をするということで行きたいと思っております。

それでは前回の第9回の検討会議、その前の第8回の検討会議で話し合われた建設候補地について取

りまとめておりますので、事務局から説明をいたします。

事務局（佐々木室長）

それでは私のほうからご説明をさせていただきます。恐縮でございますけれども、着座にてご説明させていただきます。

第8回、第9回の検討会議では新花巻図書館の建設候補地につきまして、事務局が作成した新花巻図書館建設候補地選定検討資料によりまして、現在お示ししております花巻駅前、それからまなび学園周辺の2つのエリア。その内の4つの候補地につきまして新花巻図書館整備基本構想と新花巻図書館の整備、これは議会の特別委員会から市への提言等に基づき、比較項目を設定しまして、それぞれの候補地についてデータを示し説明をさせていただきました。

会議でいただいたご意見につきまして、本日の資料1、試案検討会議における建設候補地選定に係る意見一覧というもので整理してございます。資料1に掲載しているご自分の発言内容について今一度、少し時間を取りますので、確認を願えればと思います。

なおこの資料につきましては、議事録の公開をしておりますけれども、この資料、意見の集約ということで公開をして行きたいと思ひまして、議事録でもお名前を出すようなかたちにしておりますけれども、改めまして発言内容について記載することでよろしいかというところもお伺いしたいと考えております。事務局から以上です。

座長

では少し時間を取りまして、中味について確認をしていただきたいと思います。これまで8回、9回で委員の皆さんの意見を取りまとめたものです。正しく書いてはあるつもりではありますけれども、ここちょっと違うなど、ありましたらご意見をいただきたいのと、あと本日もさらにですね、加えてご発言をいただける部分、あるいはまた各団体等で意見交換をした際にこういう情報がありますよというようなことがありましたら、ご意見をいただきたいと思ひます。この時計で、あと5分間確認をいただければと思います。

なお確認と先ほど申しましたけれども、新たにご意見をいただいて構わないんですけども、ちょっと時間調整が事務局でできなかつた、佛川委員と佐藤委員、熊谷委員は8回、9回と欠席されてます。なので、ご意見がありましたらいただきたいと思ひます。

座長

はい、よろしいですか。

それでは、まずはまとめた資料1についてですね、ご自身の発言等で少し違うとか加えて欲しいとか、ご意見がありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（会場から意見等の声なし）

座長

それでは、前回、前々回欠席されておりました方から少しお話をお聞きしたいと思うんですが、佛川先

生、佛川委員いかがでしょうか。

佛川委員

立地条件はすごく重要なポイントだなというふうに思います。自分自身が小学校1年生の時、体育館前の所にあった図書館が若葉町のほうに、文化会館の所に移転されてから一度も行ってないなということがありました。そうするとそれだけ立地条件も大事だなということも踏まえつつ、さらにこう意見を読んでいったんですけども、どちらにも一長一短があって、将来の方のためのものを私たちが作るという責任の重さを感じてしまうなとも思っています。

その中で自分がじゃあ小学生だったら、中学生だったら、どんな環境で図書館に行きたいかというふうに思った時に、何かこう鳥が飛んでいて周りに緑があって、といったところがいいなということを感じます。何かそういうところで本を読んだりというのも素晴らしいのではないかなということも感じました。ですので、これはその好みの問題もあるでしょうし、どちらにもいい所、悪い所があった時に、使っていく中で、そういう歴史の中で、こういうふうになって、こういう図書館になって行くんだろうなと何となく感じます。そこで、どちらがいいかなという時に、そうすると何となく私はそのまなび周辺、表現がよくないかもしれないんですけども、こちらのほうが将来的な発展はどうかは別として、落ち着いた雰囲気の本が読まれるかなとちょっと感じました。でもそれを自分の世代でどう考えるのかなというふうにすごく悩んでしまいました。ですが、広さということのみで考えれば、やはりこちらのほうだなということも考えますし、出来上がってしまえばきつと使いながらその良さが浸透して行くだろうなと、どっちになっても使いながら歴史を積み重ねながら花巻の図書館が育って行くのではないかなというように感じています。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

続きまして佐藤委員お願いします。

佐藤敦士委員

すみません、長いこと休んでしましまして申し訳ありませんでした。第8回、第9回のご意見を読ませていただきました。そもそものところに戻ってしまうかもしれないんですけども、この検討会議の所で、このように決めましたという具申するものなのかな。あっちにはこういうメリットがあり、こっちにはこういうメリットがあり、あっちにはこういうデメリットがあり、こっちにはこういうデメリットがありという、そういう条件を整理して提示するところまでがこの会議であって、それを決めるのは私たちではないのかなとそもそものところで思っているところです。

2つ目は、駅前賑わいをつくりたいんだとか、都会的な、そしてスポーツ用品店の前の広場みたいにコンクリートで、都会的なそう言ったエリアをつくりたいのかな。こちらのほうに作れば緑地が多くつくれるような、緑が、そして広々とした憩いの場としてつくりたいのだろうな。図書館が何を狙ってつくられるものなのかなというの、ここで大きく出てくるのかな。賑わいをつくるための起爆剤として図書館をつくるものなのか、それから学習、教育機関としての場所としてつくるものなのかっていうところは大きな分かれ目になるのかなと思いますし、読ませていただいた中で市外の方の利用だと観光

客という話もあったんですけど、私個人的には市立図書館ですので、市民のためというのが最優先かなと思っています。市外からどのくらい来るとか観光客がそこをどう思うかってのは、あまり関係なくていいのかなっていうのが私の個人的な思いです。

3つ目、それを建てるだけでいいのかな。例えば花巻市としては賑わいをつくりたいんだ。都会的な図書館をつくりたいんだ。学生も利用する駅前につくりたいんだ。だからそこに図書館を建てるんだ、だけじゃなくて、そのエリアをどのように都市開発をするつもりなのかな。図書館単体をつくるのではなくて、その後の部分も考えていかないと、ただ1個建物を増やしただけは、つくっただけであっては賑わいにもつながらないだろうし、だからその駅の西口とのつながりというのものもあるだろうし、プラスアルファの様々な関係施設がその周りに集合するのかな。それが駅前再開発なのかな。その時に用地の買収等々、実現できるものなのかな、なんて思いますし、こちらのほうのまなび学園周辺の所はなかなか交通の便が悪いっていう話もあるわけなんですけれども、その利用しやすさっていう建物ではなくて、建物を取り巻く交通機関なり道路環境の整備なりっていう部分なので、そのところが伴えば利用しやすさについてはカバーできるものなのではないかなというふうにも思っています。個人的にどちらがっていうような思いはあるんですけども、何かそれ以前の段階で、そういうことを踏まえて考えていかないといけないのではないかなというのが私の思いです。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

熊谷委員もご意見を伺います。

熊谷委員

熊谷です。私は、確かに緑の中に図書館があって、その緑に触れながらゆったりとする時間を過ごすということもすごく素敵なことだと思いますし、また駅のあたりで利用客が本当に利用しやすい図書館ということもすごく大切なことだとも思います。ただ、緑がいっぱいとか、ごめんなさい、鳥が鳴いてるとかいうような、それは外的な感じなので、図書館ができたとか、その図書館自体をどのような雰囲気を持って行くのかっていうことが、私はすごく大切なことなんじゃないかなと思います。いろいろな物の配置だとか、そこに行けばホッとするようなやり方というのは、必ずあるはずだと思いますので、私はやっぱり中学、高校生が本当に図書館を利用しやすい所に設置するのが一番いいのではないかなと思います。年寄り、私たちみたいに歳をとって、例えば免許を持ってればどこでも行けるわけですけども、だんだん免許返納したり、私は東和町に住んでいるので、東和図書館に行くことが多いとは思んですけど、たまには中央図書館のほうに行ってみたいなと思った時に、もう車を使わないということになった時を考えてみましたが、駅から降りて、歩いて、まなびの図書館まで来るというのは、しんどいかなと。駅に降りてすぐにあって、そしてまた駅から列車に乗って東和に帰って来るというのは楽かもしれないなと思います。これは私自身の考えだけなんですけれども、そういうふうに思いまして、私はやっぱり駅前、あれだけいろいろと、すごく昔は賑わいのある駅前でしたよね。私が嫁に来た時には本当に結構賑わいのある駅だったのが、本当に寂れてしまったなということを考えて、図書館をあの辺に建てて、そして皆がそこに集まるというようなかたちになるといいのかなと。この間、宵宮があったんですよ。でも私はそこには行かなかったんですけども、久しぶりの宵宮で、ものすごい人が出てたという

ことを聞きました。行こうと思えば行ける場所。若者も結構列車に乗って行けるでしょ、っていうようなこと。私はそこで、ああ、そうなんだ。行こうと思えば行けるんだ。何か乗る物があれば、そこに行けるんだなっていうことをすごく感じましたので、私自身としては、駅前に図書館ができれば本当に高校生の利用者が多くなり、高校生の利用者を私は多くしたいなと思います。

座長

はい、ありがとうございます。

今のご意見等を踏まえても、踏まえなくてもいいですけども、再度ご意見お持ちの方はないでしょうか。

山下委員。

山下委員

先に述べたことと重複するかもしれないですが、第9回の検討会で、図書館長さんが、コロナ以前では一年中600から700、土日はそのぐらいの利用者があったと。コロナで減って400ぐらいだという話もありました。私はコロナで図書利用が増えてるんじゃないかなと実は思っておったんですが。というのは「地方自治と図書館」という本の中で、総務省の武井さんという方が、かつて岩手県に赴任していたことがありまして、「平成23年3月の震災被害に遭われた方々がたくさんいるので時々岩手に行きます。アイーナを訪れ図書館にいる皆さんとお話する機会がありました。その資料を改めて見ておりましたら、震災前の23年度とその後の貸出件数が自然や技術の分野、絵本や郷土の分野、宮沢賢治関連で増えていることに気づきました。宮沢賢治は冷害で非常に厳しい時に農民を励ますために教師を辞めてああいう道に進みます。今回の震災も心の拠り所が欲しい時に図書館に行って救われる。そういう人がたくさんいるのではないか、災害に限らず心の拠り所、生きる力を与えてもらえる場所、そういうことにも目を向けて行きたいと思いました」と、あの図書館について片山善博さんと語り合っているのが載ってるんですが、全く図書館は生きる力と大変な時に心の拠り所となる、そういう部分もあると思います。また早川先生が関西の人が岩手ってというのが分からなくても、花巻は分かるっていう、この間そういうお話でしたね。何で花巻が分かるかという、ここに宮沢賢治がいたからなんですよ。盛岡でも北上でもどこでもない花巻です。この賢治の里の図書館として、プラスアルファの部分の多くを望めるのではないかなと思います。そして前野委員さんがこの前もおっしゃったように、せっかくの宮沢賢治の名前だけではなく、そういう文学であったり自然であったり思想であったり、そういうものを肌で感じられる図書館、こういうものが欲しいというお話でした。やっぱりそこには自然が一つも感じられない駅前ではなく、何よりも生きる力や心の拠り所となる図書館は賢治との縁の深い所、ここ花巻病院跡地、こここそふさわしいと私は思っております。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

他にご意見ある方ないでしょうか。いかがでしょうか。

白岩委員。

白岩委員

はい、まるごと市民会議の白岩です。私も意見出してますので、大体は駅前でいいんじゃないかなというように出したんですけど、先ほど佐藤委員がおっしゃったように、市の税金を使うのであれば、図書館を使う方も使わない方もある程度納得というか、使わない方もいるので、その方も意識して、市の税金を使うのであれば、後からこうではなかった、こういうはずではなかった、とならないようにしなければならぬので、まちづくりですか、この前の会議でも言った、今度新しく長期まちづくりプランですかね、それが今からちょうど開始してるんですよ。それに図書館も組み込んで、図書館、そういうふうなまちづくりの中にきちんと組み込んで、将来図書館が花巻市にとって、どういう役割をすとか、花巻市民の方にどういう利益を与えるのかというのをきちんと議論に入れて、まちづくりの議論の中に入れて欲しいと思います。そういう議論を今までしてこなかったんで、今からスタートしたのを、これまで私たちも何回も言ってたんですけど、サービスとか設備とかそういうのじゃなくて、こういう、基本構想に戻るとは言いませんが、花巻にとって図書館、どういう図書館にするかという議論をきちんとして、ビジョンとか理念とかコンセプトとかあると思うので、それをきちんと掲げてからすれば、自ずと場所が決まるんじゃないかと思えます。

あとニューズレター私たち作ってるのをお配りしたんですけど、A4 ですね、この裏側に、これまで試案の中味が大体どういうふうになってるかまとめてみようってまとめたんですけど、試案の内容が長いんで、なかなかわかりづらいんで、こういう内容にまとめて、うちの市民会議なりにまとめてみたんですけど、やっぱりまちづくりのための図書館がどういう役割を、役立つかという部分がちょっとあいまいな感じなんですよ。平成 25 年、前市長のとき、花巻中央図書館基本計画案があつてですね。基本方針の 4 番目として「まちの賑わいと豊かさの創出」というのがあつたんですけど、今の基本計画案ではそれが入ってないんです。まちづくりとかまちの賑わいと図書館が繋がる視点が消えている。例えば山下委員のグループのように図書館は、まちづくりとか賑わいから切り離したいという考えのグループもありますし、私たちのように、まちづくりや賑わいと図書館が繋がるほうがいいんじゃないかなというグループもあるんで、そのへんの議論をして、皆さんが納得した上で基本計画を作って、そうすれば自ずと建設場所も決まるんじゃないかと私は思います。

ちょっとまとまらなくてすみません。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

他にご意見はありませんでしょうか。よろしいですか。

佐藤委員おっしゃったとおりですね、この場で場所を決めるというものではなくて、皆さんの意見を踏まえまして場所を検討するのは我々と言いますか、事務局のほうで決めて行きたいというものですので、あくまでも皆さんのご意見を参考にさせていただきながら今後決めて行きたいなというところがあります。やはり日程が合わずにご出席いただけなかった方もありますので、ちょっと時間はかかっておりますけども、できるだけご意見を聞きながら意見を集約して行ければなと思ってきたところがあります。

はい、藤井委員。

藤井委員

今の座長さんの話も踏まえてですが、実は毎年私自身、障がい者団体の花巻の会長もやってますし、それから老人クラブの事務局も担当してます。どこの団体でも3月4月は理事会やったり評議委員会やったり総会やったりするわけです。今年もなかなか総会だけは人数が集まらず、書面議決にしまったところもあるんですが、2つの障がい者団体の理事会とそれから老人クラブ、花巻の老人クラブの代表者会議の中で、図書館の検討の経過について私なりに、持っていた文書を皆さんにも渡したんですが、それでどちらの会議でも言われたのは、「まだ議論やっているのか」とはっきり言われました。そして特に今月の17日ですか、市議会議員選挙始まりますよね。やっぱりそういう方々に分かるような、響くような方針を早く出して、おそらく市議会議員に立候補する方で図書館の問題を大きく訴える方、私は少ないんじゃないかと非常に残念に思ってるんですけども、「それに響かせることが一つあなたの仕事じゃないのか」と言われましたけども、いや一人で進めているんじゃないからそれは無理だというふうには答えましたが、いずれ一定の答申案を早く出す努力をやっぱりやるべきだなとだけ思いました。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

他にご意見ある方、いらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。

今の藤井委員のご発言もそうですし、いろいろ要望もいただいておりました、早く進めるべきではないかというご意見も多くなっているなど感じております。そうした中で我々としては皆様からご意見をお伺いした中では、やはり駅前のほうが少し多く、一定の方向性があるのかなと感じておりますが、ただし、そちらはJRから土地を買わなければいけないということもございます。まず駅前を第一候補地として、少し市民のコンセンサスを得ると言いますか、説明をして行ったらどうかと考えておりますが、事務局のほうで少し説明していただいてもいいでしょうか。

事務局（佐々木室長）

はい、座長からもお話がありまして、今回の会議まで含めて、いろんな団体を代表する皆さんからそれぞれ建設候補地に関するご意見をいただいておりました、このまとめのほうにも記載をさせていただいております。その中で最終的に意見の多かった2カ所とも、どちらにも利点がありまして、どちらにも課題があるというのは皆さんからお聞きしたところではございますけれども、今、試案検討会議の委員の皆様から伺った意見の中ではですね、JR花巻駅周辺のスポーツ用品店の敷地を候補地とする意見というのが、どちらかという、ということになりますけれども、多かったものと現時点では認識しているものであります。新しい図書館については多くの人に利用して欲しいというご意見をたくさんいただいております。駅は将来を見据えても交通の拠点ともなりまして、今まで図書館を利用していない人たちが利用する可能性が高くなるだろうと。試案検討会議の委員の皆さんの共通の新しい図書館については、やはり多くの人に利用して欲しいという観点が一番大きな要素であると、お聞きした中では判断できるものかな、というふうに考えまして、試案段階としましては、あくまでも試案段階ということですが、第一候補地につきましてJR花巻駅周辺のスポーツ用品店の敷地にしたいというふうに考えます。

この場所を建設候補地とした場合ですね、どうしても用地を取得する場合の要件としてJR東日本と

の交渉という部分、具体的な交渉を行う必要があるということでございます。ですから、まだすぐに決められないというのは、そのとおりでございますので、スポーツ用品店敷地を候補地とした場合にですね、試案検討会議の検討過程などについて今後、市民あるいは関係団体、先ほど市議会議員選挙という話もありました。市議会議員さんも新しくなる方もいらっしゃるのかなと思われまますが、そういった方々も含めまして説明会というものを開催しながら、市民との合意形成ということで、なかなか進まないという話をお聞きしておりますけれども、まずはご説明を差し上げて、ある程度、一定の方向性を伺ってまいりたいというふうに考えます。事務局としてはそのように考えておりますけれども、皆様のご意見をいただきたいと思っております。

座長

はい、今の提案ですが、第一候補地をスポーツ用品店の所として、まず市民の皆様、関係団体、あと議員も含めてですが、説明会なりを開いて市民の合意を図って行きたいというものです。J R東日本と具体的な交渉を行うためには、皆さんにまず合意を図らなければいけないわけですから、それを図りながら進めて行きたいと考えておりますが、いかがでしょうか。ご意見お持ちの方。

はい、佐々木委員。

佐々木委員

一歩先に踏み出そうという感じは大変結構だと思ひまして、しかも花巻駅前であればいいというわけではなくて、駅前の案をブラッシュアップするために、具体的には隣接地をJ Rさんから取得するプロセスにつながなければいけないし、J Rさんは駅舎のほうの計画もJ Rさんにそのようなつもりになってもらわなくちゃいけないということなので、そこまで一体で考えて図書館と駅舎も含めたプランを練って行かないと。駅前であればどこでもいいとは我々全然思っていないものですから、そういうプロセスにきちんと進めるという意味でもですね、一歩進めて欲しいなというように思っております。

それからまなび学園の案に関して言うと、やっぱり私は一番は環境の問題、ずいぶん病院も壊れてきた様子を見ると広がっていいところも感じられるなという思いもないわけじゃないんですけども、やっぱり道路アクセスが圧倒的に、市からの集約にもありましたけれども、駅西の方との道路のアクセスにはもう非現実的な状況というのは示されているので、そうなるとやっぱりアクセスをする人がこの近くの方々にかなり限定されてしまう感じがいたしまして、駅の西側の方からかなり距離感を感じてしまうということもトータルで考えると駅前で良いプランを練るために市の中の議論を一步進めるという意味で、事務局が提案をいただいているということに対して賛成をいたします。

座長

はい、ありがとうございます。

他にご意見ありますでしょうか。

佐藤委員。

佐藤敦士委員

久し振りに来て勝手なことを言ってすみません。ちゃぶ台を返すようなことをまた言うかもしれませ

ん。

私、個人的にはどちらかという意見は持っていますが、それを敢えて表明していません。というのは先ほどお話したとおりです。こういう図書館をつくりたいねっていう話し合いを今までできてすごく楽しかったです。子供たちに本を読んでもらいたい。人が集うような図書館をつくりたい。そういう図書館をつくりたいっていうことについての意見を出し合うのが本筋のこの委員だったのではないのかなと思っていて、座長がお話のとおり、座長は行政ですので、行政として市民のほうに、もしくは関係各位に説明しなければいけないので、その時には絞り込んだほうがいいんだろうなど。市民に提出するには絞り込んだほうがいいんだろうと思うんですけども、今のこの委員の意見を聞いて多い方を第一にというのは、実は私今ここで聞きたくなかったと思う。いろんなこういう意見を聞きました、それを持ち帰りますとして、市としてはこっちにしましたっていうふうに出して行くのかなというふうに思っています。持って行き方の問題なのかなと思っていました。

2つ目は、すみません、花巻市民の皆様の悪口を言うてしまうんですけども、私、花巻市民ではありません。他県から来た人間です。新花巻の駅に降りる時に周りに何も無かったと。今から35年以上前の話です。で、それを笑いのネタにして言ったらば、先輩に何てこと言うんだと、花巻市民がどれだけ苦労してあそこに駅を建てたか知ってるのかと。それからいろいろ勉強さしていただいて、その苦労は分かっています。分かっていますけども、新花巻駅前の状況はそんなに変わってないのかなと。駅を建てればいいじゃなくて、駅を建てたらその周りをどんなふうの開発して行くのかなとか、賢治記念館だとか新渡戸記念館とか光太郎記念館とか、当然その場所に必要だからその立地になったと思うんですけど、みんなバラバラすぎて使い勝手悪いなど。それをつなぐようなアクセスが無いよとか。プロ野球を呼べないようなちょっと狭い野球場だったり、ちょっと天井の狭い体育館だったり、何かこう先を見通して、こういうふうに行ってこうなっていくビジョンある上での図書館であって欲しいなっていうのがさっきお話したところなんです。そういったまちづくりについては実はこの図書館検討委員会で話し合うものではないのではないかなと思いつつも、でもまちの賑わいとか活性化を考えた時に建てるんだというのであれば、それはやっぱり単体ではなくてトータルで考えて行く、将来のビジョンの上での図書館として考えて行くっていうのが必要なんだろうなというふうに思っています。すみません、また勝手なこと言って。

座長

はい、ありがとうございます。

他にご意見ございますか。

はい、どうぞ白岩委員。

白岩委員

すみません、まるごと市民会議の白岩です。今、JR駅前も私良いと思ってるんで、その案で出そうかという話があったんですけど、出すにはやっぱり基本計画の案は一応整理してやるんですよ。ただ場所だけで整理してるから。今、バージョン2で出てますけど、私は結構あちこちの市民グループから話聞いて、良く聞くのが大迫とか東和だとか、あと石鳥谷の方とかは、自分のところにあるから、あまり花巻図書館に関心無いんですね。うちの家族ももちろん花巻市内なんだけど、3つもあるからいらないとか、

図書館はいらなとはっきり言う家族もいて、要は普段全然本読まないし図書館も行かないので、関心無いんですね。だから場所はこの案で出してもいいと思うんです。ただその後に基本計画を整備する時、中央図書館の機能をもうちょっと分かりやすく、各地区館の方もメリットある中央図書館のネットワークとか、その中央図書館の役割というネットワークもきつと整備している、中央図書館は各地区館にもメリットありますよと、ちょっと整理して市民の方々にも理解を得るように基本計画を整理するとか、分かりやすくして、これでもって場所はこうですよというストーリーで、市民の方々の、多くの方々の理解を得るのをしたほうが良いんじゃないのかなと。中央図書館の機能、私は素人なんで良く分からないんですがいろいろあると思うので、中央図書館としての役割とか。それによって各地区の図書館が活かされるというのをもう少し分かりやすい、我々でも読めるような感じにしてほしいなと思います。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

他にご意見ある方ないでしょうか。

はい、小国委員。

小国委員

小国です。住民説明会を行うということですが、まず説明に持って行くものっていうのが、今回設置場所、それに絞ったかたちで説明会っていうイメージなのかなと思うんですけども、あともう一つその持って行き方ですけども、検討会議で検討した結果、駅のほうに向いてるよとかたちで説明して行くのか、どういう進め方するのか、ちょっと確認をしたいんですが。

事務局（佐々木室長）

はい、ご説明いたします。検討会議につきましてはこういうご意見があったというのは、そのとおりでございますけれども、検討会議の中でもこれまでご説明して来たメリットなりデメリットなり、そういったものについても改めてお示しをしながら市民の方々にご説明するっていうのが基本なのかなと思っております。以上です。

座長

よろしいですか。

小国委員

つまり検討会議の結果的なものを題材に説明して行くってことですか。

事務局（高橋次長）

先ほど室長が話したとおり、検討会議で意見をちょうだいし、今までの皆様のご検討いただいたサーベイスや、中央図書館の機能という部分についてはバージョン2のところである程度整理できているかと思えます。そちらの資料も踏まえまして、私たちとしてはこの試案検討会議で検討した基本計画を実

現するには J R 東日本スポーツ用品店跡地が良いのではないかというかたちで市民の方にご提示できればというふうに考えております。

座長

よろしいですか。

小国委員

はい。

座長

はい、佐々木委員。

佐々木委員

私はこの意見の一覧表、取りまとめていただいたやつが非常にいいなと思っております、それは委員の方々の意見がまなび周辺の案に賛成な案も J R に賛成の案も、どちらかというとの案も、その他の案も一通りこう記載されていて、どのような議論が行われていたのかということが他の方にも非常に分かりやすくなっているんですね。これをやっぱりお示しをしないと、どういう議論が行われた結果、これだと例えば花巻駅周辺でしかないよなというような理解にようやくたどり着くというものであって、これを読んだからといって、例えば人によって意見が異なる可能性もあるので、こういう議論が行われた結果、駅周辺に決まったというよりは、こういう意見がいろいろあった中で、もちろん委員の中でも意見が割れるんですけど、それはしょうがないですね。その上で、より決定権のある方の所でもってですね、決まった際にこういうことがいろいろ話し合われた結果、駅周辺に決まったんだね、これはしょうがないなっていうことの理解の一助になるまとめ方をさせていただいているので、これをそのままお示しをするというほうがいいんじゃないかなというふうに思っています。これは行政の仕事なので、私が述べることではないんですが、私が例えば商工会議所の方々にご説明をするとすれば、そのように行います。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

他にご意見ありませんでしょうか。

ここで決めろということではないです。皆様のご意見を踏まえまして我々で、今日のご意見も当然入れながら資料を作らなければいけませんし、それに基づいて、これは駅に決めてしまうというわけではなくて、J R 東日本と具体的な交渉を行うためには市民の合意形成が無ければ交渉できないわけですから、まずその点をご説明して J R と交渉ができるようにしたいというものです。全てがこれで決まってしまうわけではございませんので、まずこう市民の意見を聞いてはいかがかなというところでございます。そのためにはこれまでの試案検討会議での経過、当然そのボリュームが多いものですから、全て説明するというわけにはいかないと思っております。ご意見は今までのも踏まえまして、場所というのはやはり重要だというのは皆様ご理解いただけると思いますし、今までの検討の中で、こういう図書館

をつくる上で、議論した中では第一候補地として、こことするのはいかがでしょうかという説明になるかと思しますので、これまでの皆さんの発言の趣旨というかも出してですね、説明をさせていただきたいと思います。

はい、堀合委員。

堀合委員

ここに出席しておりますのはそれぞれの立場の、その中から代表というか、そういうかたちで出席しておりますが、よく見ますと旧花巻市だけではなくて、私は石鳥谷、それから熊谷さんは東和、小国さんは大迫というふうに、偶然だとは思いますが、そういう旧花巻市内だけではなくて、それ以外の3町も新しい図書館に期待をしておりますし、実際、私も知り合いも花巻図書館を利用しておりますので、そういった意味で居住地も割とバランス良くと言いますか、市内の方だけということではないということも触れてもいいのではないかなと、そのように思います。以上です。

藤井委員

私も東和町ですが。最後に、市内の方ばかりじゃないと言いましたよね。東和町も石鳥谷も大迫も花巻市内ですので。これはね、やっぱり旧花巻市民との感覚のズレです。それはね、私言われると非常に腹立たしいんです。あんた東和町だね、私は花巻市民よと言われたらやっぱりね意見出します。以上です。

堀合委員

そういう意味ではありませんので。ご理解を。

座長

堀合委員がおっしゃったのは、例えば石鳥谷でも説明をして、というような意味ですか。

堀合委員

そうではないです。今、ここに来ている検討委員の人たちがいろいろな地域からも来ていますということも触れてほしいなという意見です。

座長

わかりました。説明のときにですね。

事務局（佐々木室長）

具体的に誰がどうっていうふうにはしませんけれども、委員構成としてこの地区から何名が来るといようなかたちでお示しすることも可能かなというふうに思います。ありがとうございます。そのようなかたちで進めて行きたいと思います。

座長

はい、他に意見ありますか。

白岩委員。

白岩委員

白岩です。先ほどの市民説明会の合意とかの話なんですけど、前回、前回というか、基本計画の試案のバージョン2で、16ページに計画作成から流れというのを示していただいたんですけど、そうすると市民参画がその市民説明会だと思うんですけど、その前に教育委員会議、社会教育委員会議があるんですけど、今回の話でいうと、基本試案会議を終わった後に説明会をしてからまた教育委員会会議がある。そういう流れが変わって来るといふか、そういうことなのか、ちょっとよく分からない。先ほど然るべき方が決断をするのはいつなのか分からない。だからそういうやっぱり全体の流れがきちんとしていないと、何か決まらないような気がする。それは、これは変わってくるんですかね。

事務局（佐々木室長）

はい、お答えします。今回、試案検討会議の中でも場所の議論がすごく重要だというご意見もいただいております。先ほど来、ご説明している中で場所がある程度定まらないとですね、基本計画が前に進まない状況に今なっているかなというふうに思っております。市民参画の具体的なものを始める前段階として、まず場所について市民の方々にご理解をいただくような説明会等を進めて行くというものでございます。基本計画の最後は市民参画ということになるんですけども、その前段階として場所についてだけ特化をした中で、ご説明をして皆さんのご理解をいただきたいという内容でありますので、このお示したフローチャートには実は記載がないものであります。場所についての議論は大事だという話がありましたので、進めたいというものです。

座長

よろしいですか。

白岩委員

はい。

座長

つまり市民参画というのは教育委員会とかでも、計画を決めてと言いますか、まずほぼ案を決めてからパブリックコメントと市民への説明会と図書館協議会での審議というふうに決めてるわけですけども、その前の段階で場所について皆さんに合意を得たいということで説明をしたいというものです。

よろしいでしょうか。

白岩委員

あとすみません、JR駅前という意見を出したんですけど、今考えたらスポーツ用品店じゃなきゃだめだというような。そこがダメだったらダメだとう流れになっているんですかね。そうじゃなくても別なところもあるでしょうし、私個人としては却下されましたがなはんプラザに図書機能を入れたらいいんじゃないかなと出してるので、場所はだから、場所はそこがダメなら全部計画がダメなんじゃなくて、き

ちんと基本計画としてのコンセプトをちゃんと掲げて、場所とか規模とか予算の中で変わって来るんだから、場所は例えば中央図書館構想も何か汚染が出てきたからぼしゃるんじゃなくてきちんと基本構想を掲げておけば、このまま計画は続けると思うので、あまりスポーツ用品店にこだわったり。まあ交渉はすべきだと思うんですけど、それがダメだったらダメという頭でやるんだったらつまらないんじゃないかな、と。よろしくをお願いします。

座長

はい。交渉する上でもですね、まずは市民の皆様の合意を得なければいけないということですよ。ですので、それでまた交渉しますけども、交渉でダメなんであれば、また変えるということはあるというふうに思いますので、まずはそれについて市民に説明して合意を得たいというところです。

はい、早川先生。

早川教授

すみません、先ほど中央図書館の機能と、あとは石鳥谷地区、大迫地区、東和地区に現図書館があるわけですが、そういう現状の中で新しい図書館ができて中央図書館の機能を持つというのはどういうことなのかということですが、まずですね、計画室のほうにもですね、僕のほうからこういうふうにお話をさせていただいています。石鳥谷を始めとした3館ですね、共同書庫の役割を持たなければいけない。これはどういうことか。まあ石鳥谷、大迫、東和図書館の現状を見てですね、資料の状態の細かい所まで見てまいりました。3館とも身動きが取れないんです。もう目いっぱい。どういうことかと言うと、いつ行っても同じ本が並んでるといようなですね。ちょっと魅力に欠けるような図書館運営をせざるを得ない状況にあるのではないかと。中央図書館ができた時にいっぺんにこれを解消しなければならぬと私は計画室のほうに申し上げています。どういうことかと言うと、動きの悪くなった本を全部中央図書館に引き上げて来るということ。もしくはリユースをする。それで中央図書館のオープンに合わせてですね、できれば。先ほどからありますけれども、中央図書館ができたなら石鳥谷の図書館も変わったよねと。東和の図書館も変わったよねと言われるような機能を持つのが中央図書館だというふうには計画室には申し上げています。

もう一点、使われ方ですけども、魅力が増して来れば石鳥谷も大迫、東和はですね、やはり皆さんの身近にある図書館ですから、家族と行ったりとかですね、何か用事のついでに行ったり。比較的図書館利用に時間がある時は、じゃあ新しい図書館に行ってみようというような利用形態が生まれて来るのが、他の自治体でもよくそういう例が見られます。例えば平日東和で借りた本を土日新しい図書館に返却するといようなですね。ですので、2つの図書館の使い分けができる。で、積極的に本が4館で共同利用がより積極的にされて行くといようなことが非常に重要ではないですかと計画室には申し上げます。

ですので、新図書館ができたらかくその3館が身動きが取れない状況をですね、いち早く解消して行かないとですね、やはりちょっと残念だなんていう印象を持っております。中央図書館の機能というのは極めて重要で、もう一つ、4館の企画部門を担当するのが中央図書館になります。システムとしては一つなので。花巻市の図書館ですから花巻市立石鳥谷であり、東和であるわけですからシステムを一つとして。そうすれば今ある大迫、東和、石鳥谷の利用は現在よりも上がって行くと考えてます。逆に言うと、そうしなければいけないんじゃないかというふうには計画室には申し上げます。そこが極めて

重要な点ではないかというふうに計画室にはお話をしております。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

基本計画試案の議論の中でも中央図書館についてずっと議論して来ましたので、それらも踏まえてご説明できればなというところです。

他にご意見の方ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では事務局から少し今後についてご説明をいたします。

事務局（高橋次長）

今、事務局案としてご提出させていただきました市民説明会ですが、まずは試案検討会議の皆様にご報告してから動き出すことにしております。このあと準備に入りまして、どういう図書館をつくるのかという資料、あと皆さんにご提出させていただいた検討会議の資料を踏まえて、先ほど佐々木委員からご意見をいただいた検討の状況等の資料も準備し、市民説明会の準備を開催したいと思います。市民説明会の実施後に委員の皆様の方に市民説明会でどういうご意見があったかというのをお示しするというにさせていただきたいと考えております。ですので、試案検討会議は今回で終了ということではなく、もう一度皆様にお集まりいただいて、こういうかたちでした、という報告をできた上で試案というかたちを完成させて行ければと考えております。

座長

まだですね、開館時間等も解決してないところありますので、試案検討会議はもうちょっとお付き合いいただきたいと思っております。ご意見をいただきたいと思っておりますので。

すぐ説明会ができるかっていうのは、いろんな日程の調整もありますし、選挙もありますし、議会がどうなっていくかっていうのもありますし、それはちょっとまだ検討してるわけではありませぬので、具体化したらお示ししていければと思います。

はい、どうぞ。

藤井委員

さっきついでにお話すれば良かったんですが、1ヶ月ほど前に、ある市議会議員さんから「駅前っていうのは東だけか」と言われたんです。西口に建てる所無いだろうと言ったら、ちょっと西口に行ってみようよ、と。東北電力と交渉したらどうなの、と。あそこに大きな変電所ありますよね。だからJRと交渉するよりも東北電力のほうが話しやすいんじゃないか。いやそれは今のところ検討委員会では一切議論になってません、と答えたんですが。という意見もあったということだけお話しておきます。

座長

はい、ありがとうございます。

我々も過去に検討した経緯がございまして、何かお話ができますか。

事務局（高橋上席主査）

事務局の高橋と申します。

東北電力の変電所が駅の西口にどんと構えてございますけれども、あその土地はすごく良い場所なので、あそこを何とか使えないかということで、東北電力さんにあたってみたことがございます。その際に東北電力さんからは、まず変電所を移設することは相当難しいような話をされておりますが、その中で、もし仮に近隣、例えば300メートル以内の場所に移設できた場合でのお話をいただいております、その場合で移転まで大体14年程度を要すると想定するという。ただこれはあくまでも近隣に移せる場所があって、地権者の全面的な協力が得られた場合であるという話をいただいております。さらにその移転費用とすれば、その近隣に移せた場合で大体20数億円かかって、その負担は市にご負担いただきますよ、という話をいただきました。

ただ、実際には、近隣に移せるような場所はありませんし、今の情勢で住宅地に変電所を新たに新設するということはちょっと現実的ではございません。なので、例えば郊外に変電所を移設した場合、変電施設、送電線もありますし、受けるための線も新たにつくらなければいけないということで、費用を想定すると100億円以上掛かるのではないかというお話もいただいておりますので、正直、現実的な話として移設は難しいのではないのかなという内容にはなっております。

藤井委員

ありがとうございます。

座長

将来的なまちづくりを考えてということをおっしゃりますが、どうしても駅の西直結のところに変電施設が、昔からあるわけですね。電車があったわけですから。それはどうしようもないというところもあろうかなというのがあります。

ほかに何かありますか。

前野委員。

前野委員

前野です。

市民への説明会についてなんですが、今までの説明会をとってしても、集まってその説明を聞いて下さる年齢層は、大体高齢の方というか、若い方へ説明する機会というか、そういうところがないと感じております。もちろん関心がないわけではないと思うんですね。ですが、その説明をする場所であったり、時間であったり、期日であったり、そういうふうなものを少し工夫してちゃんと、市民というのは、おぎゃあと生まれた赤ん坊からずっと高齢の方まで全てが市民ですので、どんな年齢層の方にも届くような、何か偏った説明会ではなく浸透していきけるような説明会を考えていただいて、模索していただいで説明していただきたいと思います。

座長

はい、ありがとうございます。

事務局（佐々木室長）

ありがとうございます。

全くそのとおりでございまして、私が説明した中でも「市民や関係団体」というかたちでご説明をしておりました。一般的な市民向けの説明会のほかに、例えば若者のご意見をいただくとか、そういった部分も進めていければなというところがありましたので、そういうような説明にはさせていただいておりますので、なんとか頑張ります。ありがとうございます。

座長

ほかにご意見ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは事務局、お願いします。

事務局（高橋次長）

前回、皆様にそれぞれの建設候補地についてイメージイラストを作成することにつきまして説明させていただきまして、ご意見を頂戴いたしました。その中でイメージイラストの作成について、いろんな条件がありましたので設計会社さんではなくて、現在、印刷会社さんに制作を依頼しておりますが、今日は実はまだできていない状態なので、次回のほうで確認していただくか、郵送等でご意見をいただくというかたちを取らせていただければなあと思います。イラストにつきましては、やはりどういうものかというイメージが必要だとは感じておりますので、よろしくご理解いただければと思います。

以上でございます。

座長

この件について何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは以上で本日の会議は終了としたいと思います。あとは事務局にお返しします。

事務局（佐々木室長）

ありがとうございました。

先ほど来お話ししておりますけれども、次回につきましては、やはり市民説明会というものがございしますので、その日程の関係もありますので、今後調整をしてみたいと考えております。改めて調整を図った上で次回、第 11 回の試案検討会議を進めさせていただきたいと考えております。後ほどご連絡をいたします。

それではこれをもちまして、第 10 回の新花巻図書館整備基本計画試案検討会議を終了いたします。

本日はありがとうございました。